

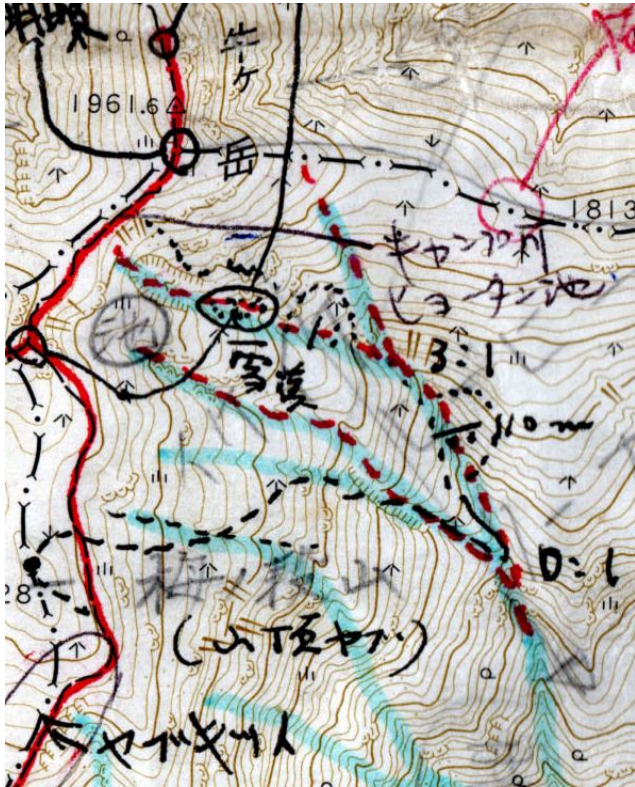
「尾根と谷(7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

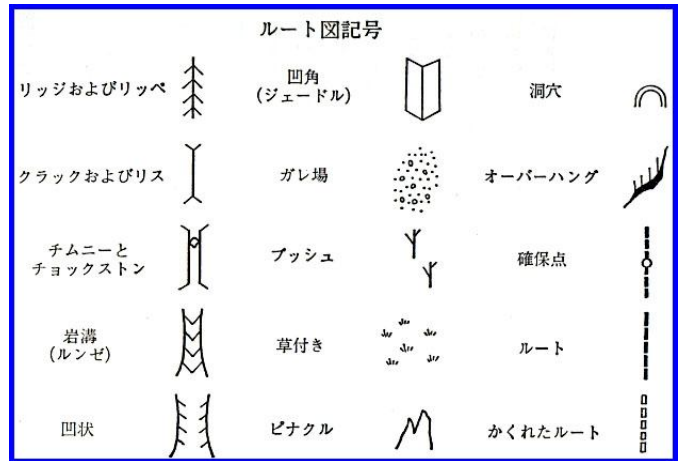
当時、利根川水源域(源頭)の実踏の結果を、地形図に記入したのを見ると、いろいろな記号や数値が書き込まれているのがわかる。



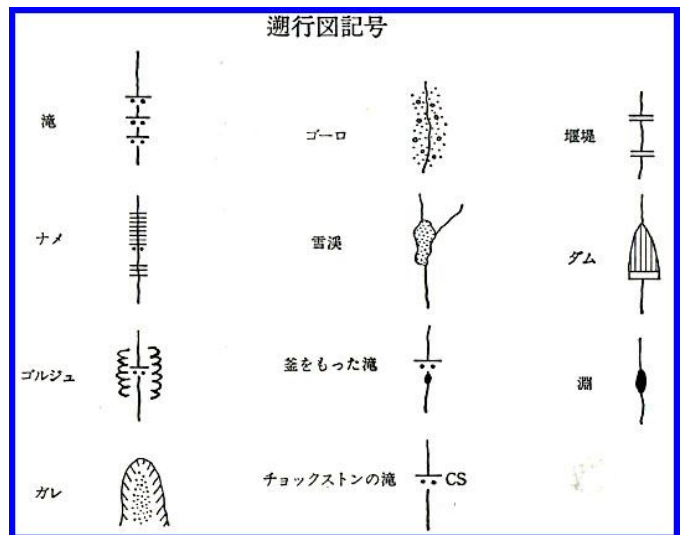
利根川本流をまともに遡行するのは極めて困難である。現在の装備や技術でも完全遡行は難しく、成功したパーティーは数えるほどしかない。当時の記憶は定かではないが、この地図を見返すと、以下のようなルートをたどったようだ。

- ①牛ヶ岳山頂から、一旦南に国境稜線をたどり、「梅の段山」と呼ばれるピークを踏む。このあたりは藪がキツク、「登山道の記号 ——」は書かれているが、実際は道はなかった。
- ②梅の段山のピーク付近から、利根川源流側(東側)に下降を開始した。
- ③利根川最上流部の一つの谷まで降り、そこから、源頭(水源)に向けて遡行を開始。図の「0:1」と書かれている谷の分岐点のあたりである。
- ④いくつかの滝や雪渓を越えながら、牛ヶ岳山頂付近で遡行終了。

実は山岳地図には、地形図とはちがう独特の記号が使われている。



一つは「ルート図」といって、主として岸壁登攀のルートを記録する時に使われる記号だ。「チムニー」とか「ルンゼ」とか、聞きなれない用語が多い。これは岩登り(登攀)をする上級者が使う記号なので、一般の登山者にはほとんど馴染みがない。



一方「遡行図」と呼ばれる登山図も存在する。これは、岩登りではなく、主として沢登り(川の遡行)の記録に使われる記号だ。「滝」や「雪渓」は説明なしでもわかるだろうが、他は馴染みがないだろう。

例えば「ナメ」というのは「滑(なめ)」の意味で、平板な岩盤が連なる川床を意味する。「ゴルジュ」とは、「峡谷」のことで、いわゆる「V字谷状」の地形を意味する。滝を伴うことが多い。「ガレ」は大小の岩石が堆積している場所、「ゴーロ」は転石がゴロゴロしている河原のことだ。

私が地図に記入した「3:1」といった記号は、「本流と支流」の流量(水量)の割合を意味する。「0:1」は支流は枯れていて、水流0を意味する。